

栃木県那須地域における外来魚の生息状況

○石川 孝典（日大生物資源・栃木県自然環境調査研究会魚類部会）

津貫 叶・増田 達哉・高井 則之（日大生物資源）

【背景・目的】

2015年10月に栃木県的那珂川上流域で生息の記録がないゼニタナゴを4尾確認した。そこで、在来種の生息と外来種の侵入状況を確認することを目的に、那珂川上流域を含む那須地域の魚類採捕調査を実施した。

【調査内容】

2017年および2018年の春期から秋季に那須地区ある約170カ所のため池および周辺水路のうち、2017年には53地点（ため池39地点、水路14地点）、2018年に48地点（ため池47地点、水路1地点）において、目視観察またはかご網およびたも網により魚類を採捕し、同定および個体数を記録した。さらに、那珂川本流に設置された築で採捕されたタナゴ類を同定、個体数を記録した。

【結果・考察】

2017年は、ため池で8種、水路で14種の魚類、築でタナゴのみ1種を確認した。そのうち、外来種はため池のコイ、タイリクバラタナゴ、カワムツ、オオクチバスの4種であった。2018年は、ため池で8種、水路で5種の魚類、築でタナゴとゼニタナゴの2種を確認した。外来種は、タイリクバラタナゴを除く前年の結果と同一種が確認された。

外来種のうち、オオクチバスが確認されたため池では、在来種が目視確認または採捕されない地点が多く、当該種による捕食の影響が推察された。また、オオクチバスが生息したため池では、疑似餌や釣り糸の投棄が目立ったことから、バス釣り愛好家による密放流が示唆された。

さらに、現地での聞き取り調査の結果、タナゴ釣り愛好家がため池に希少タナゴを密放流し、定期的に釣行している事実を確認した。当該ため池での採捕調査ではゼニタナゴを採捕できなかったが、ゼニタナゴや多種の希少タナゴを放流したという釣り人を確認した。このことから、那珂川の築で採捕されたゼニタナゴは、タナゴ釣り愛好家による密放流により生じた可能性が推測された。

今後も、本地域の外来種の侵入状況を定期的にモニタリングし、在来種の保全や外来種の駆除に活用したい。



図 那珂川で採捕されたゼニタナゴ